

令和4年度繰越 地方創生臨時交付金事業
西伊豆町図書館システム更改業務委託
基本仕様書

令和5年4月
西伊豆町立図書館

目次

第1章	新図書館情報システムの基本的な考え方.....	1
第2章	システムの概要.....	2
第3章	システム更新の前提条件.....	2
第4章	セキュリティ管理.....	3
第5章	システム構築・導入.....	4
第6章	新システム導入におけるデータ移行について.....	4
第7章	ネットワーク構築.....	6
第8章	データセンター基本要件.....	6
第9章	システム運用・保守.....	7
第10章	機器構成、システム機能仕様.....	8
第11章	納品物.....	9
第12章	その他.....	9

第1章 新図書館情報システムの基本的な考え方

(1) 概要

新図書館システムの構築においては、先進的な情報技術・サービスを活用し、さまざまな利用者のニーズに対応した図書館システムを導入するものとする。システム形態としては近年普及が進んでいるクラウド型でのシステム構築を前提とし、今後5年間の利用拡大・安定運用を前提としたシステム性能・構成での導入をする事とする。

【備考：本調達におけるクラウドシステムの定義】

クラウド型とし、PaaS、IaaS、ハウジングは認めない。

中長期的な運用により、もたらされる効率化を念頭にしており、年数経過時のパッケージ買替え、再構築時のSE作業費などが軽減されることが重要と考えている。

このため、支払う月額使用料の内訳には以下の各項目を含むものとして導入費用を算出すること。

- ① 図書館情報システム使用料（将来的に冊数・台数の増加による価格変更は認める）
- ② サーバ機器のディスク、メモリ等のリソース監視と適時の増設
- ③ 図書館情報システムの定期的なレベルアップ及びバージョンアップ権
- ④ IDCセンターでのシステム稼働状況監視と、バックアップ等
- ⑤ 障害発生時のIDCセンター内でのサポート対応

※なおSaaS契約に対する期限の制約（最低使用期間・最長期間）が無いこと。

・業務委託名

令和4年度繰越

地方創生臨時交付金事業 西伊豆町立図書館システム更改業務委託

・基本方針

本調達は一括買取方式とし、機器等の保守及びライセンス等、5年間の費用を含めること（ただし、システムの使用料、保守料は除く。）。

・システム本稼働予定日

令和5年11月1日

・システム運用・保守期間

令和5年11月1日から令和10年10月31日の5年間

・履行場所

西伊豆町立図書館

(2) 新システム構築における基本要件

- ① ネットワークを通じて、安定かつ確実に図書館業務を遂行できるシステムであること。
- ② ウイルス対策や、個人情報の漏洩防止対策などセキュリティに充分配慮したシステムであること。
- ③ インターネットを通じて24時間365日いつでも蔵書検索・予約を行うことができるよう書誌・所蔵情報が公開できること。

- ④ システムのソフト・ハードともに十分な安定性と実績を持ち、故障発生時には迅速に対応可能な保守体制が確保できること。
- ⑤ ネットワーク回線に障害が発生してシステムが利用できない場合でも、オフラインで運用を継続出来る仕組みを用意すること。
- ⑥ 利用者が活用するシステム画面（館内・インターネット上）が、大人や子ども、その他様々な利用者の状況に応じた対応が可能となるものであること。
- ⑦ 静岡県横断検索システム（おうだんくん）に対応・参加できること。
- ⑧ 静岡県地域資料MARC（静岡県立図書館提供）が登録できること。
- ⑨ 国立国会図書館MARCが登録できること
- ⑩ TRCのTOOL-iからMARC登録ができること。
- ⑪ 受託者は、この契約による事務を処理するための個人情報の取り扱いについては、西伊豆町個人情報保護条例を遵守すること。

第2章 システムの概要

対象とする業務は、以下のとおりである。各業務の機能については、2011年導入の既存システムである富士通製図書館システム「iLiswing WeV2」の後継システムでクラウド型となる「WebiLis V4」をベースとしたシステムとする。他メーカーのシステムを導入する場合は機能仕様を満たすことと、静岡県内の自治体における導入実績が3自治体以上あるシステムを条件とする。

- ① 窓口業務・・・貸出、返却、予約、督促など
- ② 利用者管理・・・利用者登録、修正、除籍
- ③ 資料検索・・・資料の検索
- ④ 目録業務・・・書誌の登録、修正、原簿作成、除籍など
- ⑤ 相互貸借・・・他図書館からの借受、貸出など
- ⑥ 収書業務・・・資料の発注、受入など
- ⑦ 統計処理・・・利用統計や貸出統計など
- ⑧ 蔵書点検・・・蔵書点検
- ⑨ WEB関係業務・・・インターネットを通じた資料検索や予約サービスの提供。
図書館が選定した資料テーマ検索、おしらせ等の情報提供や新着本案内メールの送信。
- ⑩ 館内OPAC・・・図書館利用者が自由に利用可能な端末による蔵書検索、貸出など。

第3章 システム更新の前提条件

(1) 構築作業について

今回導入する図書館システム内には図書館利用者の個人情報が格納されるため、受託者は西伊豆町個人情報保護条例の遵守と、高度な情報セキュリティマネジメントが求められる。この為、受託者は以下の要件を満たしていることを明記した資格取得証明書(写し)を提示すること。

- ① ISO27001（システムの開発や運用における適正な情報セキュリティの管理）

- ② IS09001（納入システムに関する品質保証の公的認証）
- ③ プライバシーマーク（個人情報について適切な保護措置を講ずる体制の整備）

(2) 使用MARCについて

- ① MARCはTRC図書館流通センターのTタイプを採用している。新システムでもこれらを継続して使用できること。
- ② 寄贈本や、一部の資料でMARCが無いものは手入力をしている場合があり、この煩雑さを軽減するため、新システムではNDLの提供する書誌データベースや静岡県地域資料MARC等をダウンロードし、修正、確認後、図書館システムへの登録が可能なこと。

第4章 セキュリティ管理

(1) セキュリティ管理の基本的な考え方

本システムは個人情報を取り扱うことになり、より高いレベルのセキュリティ対策が必要である為、西伊豆町個人情報保護条例に配慮したシステムを構築すること。

(2) 求められるセキュリティ対策

① 暗号化通信の導入

原則としてインターネット通信などについては、暗号化すること。利用者が予約などのWebサービスを利用する際に使用する利用者番号・パスワード等のデータ通信に際しても暗号化すること。

② パスワードによるアクセス制限

業務端末からシステムを利用する際、パスワード認証を必要とすること。またシステムにおいてはオペレータIDごとに操作できる機能・権限を設定可能とすること。利用者がWeb予約等のサービスを受ける場合にも、パスワードによる認証を実施すること。

③ ウイルス対策

端末にはウイルス対策ソフトを導入し、5年分の更新ライセンスを含んだ見積りをする。

④ 個人情報漏洩対策

外部持出可能な媒体からの個人情報漏洩を防ぐ為にUSB、光学ドライブ、PCカード、赤外線通信などの各ポートの使用を制限する機能を用意すること。ただし、USB、PCカードは機器ごとに有効／無効の設定を可能とし、業務上必要な機器を接続しつつ、セキュリティを低下させる恐れのあるデバイス等を無効にすることを可能とすること。

⑤ 個人情報アクセス記録

システムの個人情報領域へのアクセスについてはアクセス記録履歴を蓄積すること。またそのアクセス記録については障害等発生時に迅速に検索・出力し、本町職員自らが障害等発生要因の追跡を実施できる仕組みを用意すること。

⑥ Web予約システムの情報漏洩対策について

Web予約システムについては、情報漏洩や改ざんを防ぐために、Webサーバには個人情報（氏名、電話、住所等）を保管せず、かつ予約情報の暗号化を施してセキュリティ対策を行うこと。

第5章 システム構築・導入

(1) 構築スケジュール

システム構築作業期間は契約締結から**令和5年10月末**を予定している。館内での機器搬入・構築作業は受託業者と本町担当とで充分協議を行い、事前に作業工程及びスケジュールを明示し、遵守すること。休館期間は本町と協議のうえ決定し、事前の操作研修期間についてはその協議の中で定めるものとする。

(2) 構築SE体制

プロジェクト体制には既に同システムの構築実績があるSE担当者を含め、本システム構築を確実に実施できる体制を整えること。

なお、契約後、受託者は速やかに体制図を提出し、プロジェクトリーダーおよびメンバーの責任・権限を明確にし、問題等発生時の対応体制及びその責任者名を明確にすること。

(3) 稼動支援

システム導入時には職員が自由に操作練習できる環境を早期に用意すると共に、操作を問題なく習得できるよう、十分な操作研修・支援・稼動後の立会いを実施すること。

なお稼動立会いは原則として構築作業を担当したSEが中心となって行うこと。

第6章 新システム導入におけるデータ移行について

(1) データ移行対象情報

既存システム（富士通製iLiswing WeV2）からのデータ移行を実施すること。対象となる主なデータは以下のとおりである。なお、蔵書数は約2万5千件である。

- ① 書誌情報
- ② 所蔵情報
- ③ 利用者情報（利用者パスワードを含む）
- ④ 統計情報
- ⑤ その他データ（貸出、予約、発注データなどの動態情報）
- ⑥ 各種の設定情報等

これらを漏れのないように新システムに取り込むこととし、作業にあたっては除籍資料・無効利用者データ等のメンテナンスを、図書館と協議の上で行うこと。

(2) データ移行における注意事項

- ① データ移行作業は図書館休館期間中の最短期間に安全で確実に実施すること。

- ② 書誌・所蔵データ、利用者データ、貸出情報、予約情報、統計データ、その他必要なデータを安全かつ確実に提案システムに移行でき、障害が生じないこと。
- ③ インターネット予約時に必要となる「利用者パスワード」は現行システムで管理されているものを次期システムでも継続して利用できることが望ましい。継続して利用できない場合は、対応策を提案すること。なおその際は利用者への影響を最小限に留めるよう配慮を行うとともに、職員の事務負担にならないようにすること。
- ④ 統計データに関しては、現在使用している全ての統計データを漏れなく移行すること。

データ移行に関しては提案事業者の考える最適で確実な手法を提案すること。ただし、仕様書に必要と記載しているデータを対象から除外する提案は認めない。移行データの漏れが発生した場合は、受託者の責任において完了するまで作業を実施すること。

- ⑤ データ移行に関して、現行システムからのデータ抽出作業は現行業者に抽出依頼を行うこと（パッケージ製品はユーザへの使用許諾で展開されており、新業者等の第三者に再使用許諾は含まれないため）。また、その場合、現行業者の抽出費用に関しても見積りに含めること。

《連絡先》

東京コンピュータサービス株式会社 静岡支店

営業課 小野

電話：055-962-8861

メール：k.ono@to-kon.co.jp

- ⑥ データには個人情報が含まれているため、館外持ち出しは厳禁とし、移行作業は本町図書館本館内で行うこと。（データセンターへの本番移行を行う際は除く）
- ⑦ 移行後のデータに関する瑕疵担保期間は1年間とし、その間に重大なミスが発見された場合は、受託者の責任において完全なデータへと復旧を行うこととする。

(3) 統計帳票、指定書式の継承について

統計分析の継続性や推移の把握に必要なため、現行と同等の内容で出力できること。特に図書館年報、日本図書館協会への年度報告に関しては年度途中のシステム切替えである点を考慮して、当年度分は統計を年度末に一回で出力できるよう全データを漏れなく移行すること。

(4) ホームページのリニューアルについて

現在の当館ホームページは蔵書検索用Webサーバ上において、職員がメンテナンスしている。システム更新とあわせて、ホームページのリニューアルも実施すること。ホームページはスマートフォンでも見やすいレスポンス対応とすること。

第7章 ネットワーク構築

(1) 館内の配線

必要に応じて施設の配架状況をあらかじめ確認し、提案システムの能力に対し不十分と判断した場合は、配線を引き直すこと。ただし、既設ケーブルのチェックや修繕・追加配線工事費も提案金額に含むものとする。配線等が壁や床を沿う場合は、頑丈なカバー等を設置し、職員や利用者への安全と配線の保護に配慮した敷設を行なうこと。

(2) インターネット回線

既設プロバイダーを利用し、すべての端末でインターネット接続ができること。同回線を使用するにあたって図書館側にファイアウォールやルータ等のセキュリティ機器を設置し、アンチウイルス、IPS、コンテンツフィルタ、アンチスパムといったUTM（統合脅威管理）機能を搭載すること。なお毎月の回線費用は本見積りに含めないこととする。

第8章 データセンター基本要件

データセンターに掛かるサーバ運用（バックアップ、サーバの運用監視）及び保守については、クラウドサービス提供者とともに導入業者で責任をもって管理すること。

- ① データセンターは国内に設置された専用施設であること。
- ② サービスを行う図書システムがASPIC等の情報開示認定を受けていること。
- ③ 図書館クラウドとしてISO27017を取得していること。
- ④ 契約期間には、最短・最長とも期限を設けずに柔軟に対応すること。1カ月程度の期間を設ければ、違約金を生じずに中途解約できること。
- ⑤ IDカード認証と生体認証等の二要素以上により、入退出管理が行われており、警備員が常時（24時間365日）配置され、監視カメラ等により24時間監視を行うこと。
- ⑥ 施設の電源、設備、機器全体の動作状況が常時監視可能な設備を有していること。
- ⑦ 機器持出し防止等の対策が講じられていること。
- ⑧ 自治体の洪水ハザードマップで浸水地域に該当しない場所にあること。
- ⑨ サーバ室及び回線機器等のスペースについては、水害対策を講じていること。
- ⑩ ラック自体に免震装置等の対策があること。
- ⑪ ラックについては、施錠でき、許可されたもの以外は開閉できない仕組みを講じること。
- ⑫ データメディア類を適切に保管できる設備を有すること。
- ⑬ 商用及び自家発電の最低2系統の電源を有していること。
- ⑭ 停電時には自動的に自家発電へと切替わることで無停止のまま運用継続できること。
- ⑮ 自家発電装置用の燃料は72時間以上分を備蓄し、無停止運用を継続できる

こと。

- ⑯ 災害時対応として、自家発電装置用の燃料は複数の元売業者と優先供給特約を締結していること。
- ⑰ 火災感知設備、窒素ガス消火設備、避雷設備などの防火設備を有すること。
- ⑱ 本設備要件全般において、現地視察して確認が可能なこと。

第9章 システム運用・保守

(1) システム運用支援

- ① 図書館システムに精通したSEによるシステム構築ができるとともに、運用、設定変更に際しての図書館からの相談、質問には全面的に支援できる体制であること。
- ② 図書館システム運用に必要なマニュアルを整えること。
- ③ 毎年の蔵書点検時は訪問サポート、年度統計出力等のイベント時には問合せ対応を行うこと。
- ④ 図書館の運用条件変更に伴う区分コード追加作業は、相談も含め対応すること。
- ⑤ データセンターに掛かるサーバ運用（バックアップ、サーバの運用監視含む）についてはクラウドサービス提供者と緊密に連携し行うこと。
- ⑥ サポート体制は構築事業者だけでなく、システム開発元含めた体制とすること。

(2) 保守対応

システムが常に完全な機能を保つように、ハードウェア、ソフトウェア等の保守作業を行うこと。円滑な保守を考慮し、各ハードウェア・システム等を全て一括窓口にて受付すること。

(3) 保守内容

- ① 障害時の連絡対応、問診
- ② 障害原因の切り分け作業
- ③ 不良部位修理を行うと共に、必要に応じてソフトウェア（本件調達分）の回復を実施すること。
- ④ 機器障害発生時には技術者が訪問して、必要に応じた部品交換を実施すること。
- ⑤ 問合せ窓口を設置し、障害発生時に職員が滞りなく通報・作業指示を行える体制を取ること。
- ⑥ システム障害発生時は職員と十分な協議の上、土日祝日を含め技術者が現地訪問し、復旧（修繕・立会）を行うものとする。対応内容に関して速やかに報告できる体制であること。また訪問修理の困難な製品については代替機等を用意し、センドバックの間に業務に支障が無いような体制を整えること。
- ⑦ システムへの要望に対する回答やバージョンアップの説明等の情報提供を行うこと。

図書館システムのパッチ提供、レベルアップの権利提供などのマイナーバ

ージョンアップは随時行うものとし、技術提供サービス等、契約期間の保守サービスを実施すること。

- ⑧ 障害が発生した場合は、2時間以内に復旧の対応が可能な体制であること。
- ⑨ 蔵書点検時はHHTの設定・操作研修、突合せ処理の立会などで担当SEが現地訪問し、サポートを行うこと。

第10章 機器構成、システム機能仕様

機器構成は下記とする。システム機能仕様は別紙の通りとする。システムの標準機能で要件を満たしていない場合はカスタマイズ等でシステムとして対応すること。

(1) 機器台数

機器種別	数量	備考
窓口用端末（デスクトップ）	1式	OS：Windows11 Pro CPU：Core i5-12500 メモリ：8GB以上 SSD：256GB以上 ドライブ：スーパーマルチ Office：Personal 液晶：21.5型以上
利用者検索用端末OPAC（省スペース型＋タッチパネル液晶）	1式	OS：Windows11 Pro CPU：Core i5-12500 メモリ：8GB以上 SSD：256GB以上 ドライブ：スーパーマルチ 液晶：17型タッチパネル
蔵書点検用ハンディターミナル	2式	PC接続ケーブル及び電池、充電器、通信ソフトウェア含む
	(+3式)	蔵書点検期間中のみ。 レンタル（中古含む）による提供を必要数行うこと。
バーコードタッチリーダー	2個	館内OPACセルフ貸出用含む
モノクロレーザプリンタ	1台	印刷速度A4（横） 37頁／分 A3 20頁／分 自動両面機能 有線LAN、USB接続
レシートプリンタ	2台	館内OPACセルフ貸出用含む
ネットワーク機器（ファイヤーウォールなど含む）	必要数	5年分の保守、UTMライセンスを含めること
他ソフトウェア	必要数	ウイルス対策ソフト いたずら防止ソフト等

第11章 納品物

- ① 作業工程表
- ② 作業者名及び
- ③ テスト仕様書
- ④ テスト結果報告書
- ⑤ データ移行結果報告書
- ⑥ 各種会議議事録
- ⑦ 各種マニュアル
- ⑧ その他、本町が必要と認める資料

第12章 その他

(1) 機器撤去

現行の機器（現在本町で使用している機器）を本町職員立会いのもと、データを消去し、受託者の負担にて撤去回収すること。

(2) 再委託の禁止

原則として、本業務の再委託を禁止する。ただし、書面により本町の承認を受けた場合はこの限りではない。

(3) その他特記事項

本仕様書については適切に管理するとともに、これにより知り得た情報については、第三者に開示してはならない。

以上

別紙 図書館システム機能要件

分類	No.	要求機能
インフラ	1	クライアントOSはWindows11であること。
	2	利用者公開システムはiOS/Androidに対応したシステムであること。
	3	図書システムの各業務は最新のMicrosoft Edge(IEモード)またはGoogleChrome上で動作可能であること。
セキュリティ	4	図書館システムは、セキュリティに配慮し、ブラウザからプラグイン (applet) やクライアントで動作する仕組み (JWS) などではないこと。
	5	図書館システムは、Microsoft Edge(IEモード)またはGoogleChromeのみをアップデートすれば、セキュリティ対策が実施できる仕組みとすること。
	6	図書館システムは、セキュリティに配慮し、クライアントにjavaをインストールしなくても動作すること。
	7	メール送信機能は、セキュリティに配慮し、SMTP-AUTH、SMTPSに対応していること。
	8	オペレータID/パスワードによるセキュリティー管理ができること。また、オペレータID毎に業務メニューの設定ができること。
	9	オペレータIDのパスワードは桁数制限・文字種制限に対応していること。また、ログイン失敗時、ロックアウトが可能なこと。
	10	特権ID (管理者オペレータID) は一般オペレータIDとは別に離席監視の設定をすることで、自動ログアウトができること。
	11	ログイン時、及び、貸出/返却/予約や、利用者登録/検索等、意図的に利用者情報を参照する機能を使用時、自動的にアクセス記録の保存ができること。
	12	以下のアクセス情報が保存できること。 (アクセス日/時刻、アクセス館/IPアドレス/オペレータID、アクセスした業務、アクセスされた利用者番号)
	13	アクセス記録を保存する/しないを任意設定で変更できること。
	14	保存されたアクセス記録を帳票印刷できること。またアクセス記録各項目を抽出条件として指定でき、絞込み印刷ができること。
	15	保存されたアクセス記録をCSV形式にデータ出力できること。またアクセス記録各項目を抽出条件として指定でき、絞込みデータ出力もできること。
	16	特定の利用者情報を扱う帳票印刷やデータ出力時に、パスワード認証(入力チェック)ができること。
	17	利用者及びオペレータIDのパスワードは、ユーザごとに異なった文字列をソルトとして付与し、十分な暗号化強度を保持していること。
	18	利用者及びオペレータのログイン時に複数の異なる認証要件を要求することにより、セキュリティレベルを高めることができること。(多要素認証対応)
	19	多要素認証機能は、利用者及びオペレータ単位で利用可否を設定できること。
	20	多要素認証で使用する認証情報は、利用者およびオペレータが所有している複数デバイスに対して登録可能なこと。
言語	21	多言語(UTF-8)を扱えるシステムであること。
操作性	22	処理選択・コード値選択等がマウスおよびファンクションキーで操作できること。キーボード操作も可能で各入力項目間の移動もTABキー・矢印キーで可能であること(矢印キーは上下矢印による移動も可能であること)。
	23	入力項目のカーソル位置が一目で分かるように色等による強調表示ができること。
	24	入力項目で複数エラーが発生した場合は、どの入力項目がエラーなのか一目で分かるように注意表示による強調表示ができること。
	25	日付項目はカレンダーからの入力ができること。
	26	カレンダー上にて図書館の休館日を確認できること。
	27	コード項目はプルダウンからの選択が可能なこと。
	28	プルダウンに表示される順番は入れ替えができること。
	29	各種確認画面でのYes/No選択を、バーコード走査でできること。
	30	各関連業務内の処理画面(窓口業務内の貸出、返却等)の個々の展開はホーム画面に戻らなくてもできること。
	31	業務画面は、画面サイズを任意に変更可能なこと。
	32	業務画面で複数ウィンドウ処理ができること(例：複数業務の起動を行い資料登録途中に入力を中断し、貸出処理を行い、その後中断していた資料登録を継続可能)。 ※リライトカードリーダーライタやIC機器等の外部機器接続端末では単画面運用。
	33	1画面内でタブ切替えにより複数の情報を表示できること(例：貸出画面で貸出状況、予約状況、利用者通知が切替え表示可能)。また、各タブに件数を表示できること。
	34	画面で表示する各種一覧は、選択された明細または特定の項目に関し、コピー&ペーストが可能なこと。
	35	表示中画面から全ての他画面へ切り替えが可能なこと (例：貸出⇒書誌登録)
	36	各業務画面から、オペレータの切り替えが可能なこと。

分類	No.	要求機能
	37	業務端末をシンクライアントで運用する場合に、オペレータIDで起動環境の指定が可能なこと。
	38	バッチ処理に必要なインプットファイルをドラッグアンドドロップの簡単操作で指定できること。
保守性	39	図書システムの障害時、機能追加時におけるプログラムの入れ替えはサーバのみで対応可能でありクライアント毎の入れ替えは不要であること。
	40	一台の端末からシステム共通の設定変更が行えること。
	41	一台の端末から各クライアントIDの設定変更が行えること。
拡張性	42	図書館システムは、公共・学校を含む200台規模の図書館運用を保証するシステムであること。
	43	図書館システムは、オプションなどを追加することによりリライトカード、IC機器などの外部接続に対応できること。
その他	44	図書館業務メニューから、他関連Webサイト(県立図書館等)を表示できること。また、Webサイトのリンクは任意に設定できること。
	45	職員向けの「おしらせ・イベント情報」表示ができること。「おしらせ・イベント情報」は任意、かつ、複数の設定、表示が可能であること。
	46	業務ホーム画面に「当日の利用状況」表示ができること。
資料検索	47	画面の背景色(テーマカラー)を共通で設定したり、オペレータID毎に設定できること。
	48	画面の表示文字のサイズはディスプレイ解像度、ブラウザの拡大縮小で対応可能なこと。
	49	書名・著者名・出版者・任意定義項目・分類・ISBN・資料コード・内容項目・タグ名等で資料検索できること。書名・著者名・任意定義項目は、全半角混在で検索ができること。
	50	各種の可変長マークデータから漏れなく検索ができること。(マークデータの全てを検索対象可能とする)
	51	AND、OR、NOTを使用し、項目間の複合高速検索ができること。
	52	10件までの検索結果が履歴管理され、後からその検索結果一覧を表示できること。 また、検索履歴からその時の検索条件を復元でき、条件を付加することでより詳細な検索ができること。
	53	項目により、前方一致、完全一致および中間一致(分かち項目)、後方一致で認識し、検索ができること。
	54	各種検索キーをカナ・漢字・アルファベットの全半角両方で指定して検索処理ができること。
	55	うる覚えのキーワードを過去に登録された文字の中から探し出し、入力する手助けができること。
	56	検索項目を特定せず、キーワードのみの入力で検索できること。
	57	キーワード検索では、複数の単語を空白区切りで入力し、単語同士のAND条件で検索できること。
	58	特定書誌の資料の所蔵資料・未所蔵資料・発注中資料等の状態が検索結果から把握でき、また、書誌の詳細情報を目録カード形式で表示できること。
	59	検索結果から所蔵の状態(不明資料・除籍・貸出中等)の把握ができること。 また、複本に対応していること。(検索結果の表示形式を「書誌」or「所蔵」単位で切替できること)
	60	検索結果は、利用可能/貸出中/貸出不可/発注あり/除籍/相互貸借資料/未所蔵により色を分けて分かりやすく表示できること。
	61	前項の表示色は任意に変更が可能なこと。
	62	指示により、検索結果の印刷ができること。
	63	印刷のほか、CSVファイルで保存やエクセルファイルで保存も可能なこと。
	64	検索中断件数を設定できること。また、設定によって最小入力文字数を任意に指定でき、検索実行時にチェックされ、操作員の判断により検索続行するか中止するかを選択できること。
	65	検索処理中断ボタン操作でも中断可能なこと。
	66	対象館を全館、自館限定、または、任意に複数館指定して検索でき、検索結果も、本が今、どの館のどこでどのような状態になっているかを一目瞭然に表示できること。
	67	所蔵場所区分、請求記号等の所蔵(ローカル)項目を一次キーとして検索ができること。また、書誌項目との複合検索もできること。
	68	対(グループ)となる書誌項目をグループ化して表示できること。
	69	資料区分をグループ化し、二次検索条件として指定できること。(一般書と児童書を分けて検索する事が可能。)
	70	ひらがなとカタカナ、全角と半角のどちらで入力しても検索でき、検索結果は変わらないこと。同様に大文字、小文字(例『や』と『ヤ』、『A』と『a』等)どちらで入力しても検索できること。さらに、音が同じもの(例『バ』と『ヴァ』、『を』と『お』、『は』と『わ』、『じ』と『ぢ』等)も、どちらで入力しても検索できること。
	71	上記の規則を任意設定できること。
	72	洋書等の登録で英字、数字が全半角混在で入力した場合でも、全角、半角、全半角混在で入力した場合でも検索でき、検索結果は変わらないこと。
	73	資料一覧画面では通常登録順(最新が上)だが、ワンタッチで書名順、著者名順、分類順等で整列(ソート)できること。また、その整列順は図書館で任意に設定でき、5パターン以上の設定ができること。

分類	No.	要求機能
	74	前項設定以外でも全一覧項目での並べ替えが可能なこと。(ヘッダーソートが可能なこと)
	75	資料検索結果一覧の初期表示順の設定ができること。
	76	資料詳細画面にて貸出中の資料表示時、ワンタッチで利用者詳細画面へ展開し、利用者氏名、電話番号が確認できること。
	77	資料一覧画面または、資料詳細画面から、書誌登録、所蔵登録、予約、発注へ展開できること。
	78	検索項目として使用できる項目の任意設定ができること。図書・雑誌・AV等の種別毎に設定できること。
	79	検索結果一覧として表示する項目の任意設定ができること。
	80	検索結果一覧は、項目の掛け合わせによる並び替えが可能なこと。
	81	種別(図書・雑誌・AV等)の複数指定による横断検索ができること。
	82	画面から典拠対象の追加・修正・削除ができること。また、外部人名典拠ファイルからの一括登録もできること。
	83	本に印刷されているISBNバーコードの読取り検索ができること。
	84	発注中等の蔵書していない(未所蔵)書誌のみデータの検索ができること。
	85	雑誌のタイトル情報のみを対象として検索ができること。また、検索値未入力でも全タイトル検索ができること。
	86	検索結果で利用状況一覧が表示できること。また、そこで紛失/不明/弁償処理ができること。
	87	検索結果で予約状況一覧が表示できること。また、そこで予約解除ができること。
	88	資料詳細で所蔵毎の最終利用者を表示できること。(返却後の資料等に物がはさまっていた場合等の対応)プライバシーにも考慮し、表示しないこともできること。資料別利用者リストの表示または非表示の選択ができること。
	89	検索結果一覧から特定の資料を選択し、その資料の検索キーワード(著者名等)で再検索ができること。
	90	検索結果より、その資料が配架地図上のどこにあるのか表示できること。
	91	検索結果より、その資料とリンクされているイメージ(画像)情報を表示できること。
	92	検索結果より、書庫出納票(レシート)が印刷できること。
	93	内容注記や一般注記のように、分かち書きされていない書誌事項の、文中の文言について検索できること。
	94	資料一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
	95	利用状況一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
	96	予約状況一覧で表示される全ての項目は途中で切れることのないように表示幅を自由に変更できること。
	97	国立国会図書館が保有する書誌情報と横断検索が可能なこと
	98	国立国会図書館が保有する書誌情報の検索結果がダウンロード可能なこと
予約	99	画面の背景色(テーマカラー)を共通で設定したり、オペレータID毎に設定できること。
	100	画面の表示文字のサイズはディスプレイ解像度、ブラウザの拡大縮小で対応可能なこと。
	101	館毎かつ利用者資格毎に予約規則(予約有効日数・合計予約件数)設定ができること。さらに予約件数に関しては窓口・館内OPAC・WebOPAC毎に設定ができること。
	102	予約本の現在の状態(予約中、予約棚、配送中)の管理ができること。
	103	各処理ボタンに割り当てられたバーコードの走査により、画面上の各種処理選択ができること。
	104	書誌予約、所蔵予約いずれにも対応できること。予約時にどちらの方法で予約するかを選択できること。 書誌予約：複本がある場合、全ての複本に予約がかかり、どれか一冊が返却された時点で予約通知ができること。 所蔵予約：複本がある場合でも、所蔵を特定して予約をかけ、特定の所蔵が返却された時点でのみ予約通知ができること。
	105	予約した時間で予約順位を決めること。また、予約順位の変更もできること。順位変更しても予約入力日時は保持されること。
	106	予約資料の提供予定日を表示できること
	107	本人へ貸出中資料への予約を制限できること。
	108	相互貸借資料(借受資料及び貸出中資料)への予約をチェックし、メッセージを表示できること。また、返還予定日が超過している相互貸借資料に対する予約を行うかどうかを判断できること。確認せずに予約させないこともできること。
	109	延滞利用者に対して、予約を行うかどうかを判断できること。確認せずに予約させないこともできること。
	110	相互貸借資料を貸し出している利用者に対してチェックを行い、メッセージを表示できること。また、返還予定日が超過している相互貸借資料を貸出中の利用者に対して予約を行うかどうかを判断できること。確認せずに予約させないこともできること。

分類	No.	要求機能
	111	予約メモ入力ができること。
	112	予約件数の制限がかかること。処理館、予約種別(窓口予約、インターネット予約等)、利用者資格、資料種別(図書、雑誌等)毎の件数制限ができること。また、予約種別合計、資料種別合計での予約件数制限もできること。
	113	所蔵の貸出規則区分により、予約件数の制限がかかること。
	114	予約入力の件数統計(予約区分：窓口、OPAC、WebOPACと資料種別ごと)が出力できること。
	115	任意に予約取消ができること。
	116	予約取消時、予約取消理由を登録できること。
	117	予約処理で資料の検索、利用者の検索処理ができること。
	118	予約資料情報の一覧表が出力できること。
	119	館を認識した検索機能と連動し、自館の本に限定、または全館の本へ拡張して予約をかけることができ、貸出・返却業務とも完全連係ができること。
	120	資料一覧画面と連携し、資料一覧画面で複数の資料を選択し、一括予約ができること。また、課題図書等のグループ単位での予約もできること。
	121	予約資料一覧画面から、レシート印刷ができること。
	122	返却や、受入等により、利用可能となった利用者を抽出し、予約連絡一覧を表示できること。また、連絡済み/未連絡/不在の管理もできること。
	123	予約確保日(予約棚日)で抽出し、予約連絡ハガキを印刷できること。
	124	予約確保日(予約棚日)で抽出し、メールで予約連絡を通知できること。また、利用者毎にメール通知可否設定ができること。
	125	予約連絡メール送信時、インターバル(件数、送信間隔)を指定できること。また、メール送信と同時に連絡状態を更新できること。
	126	予約棚(予約資料の確保状態)を変更できること。
	127	予約毎に受取希望日を指定できること。期限が過ぎた予約は自動的に取消するのではなく、操作員の判断で取消できること。
	128	予約資料の詳細表示ができること。(検索相当の表示ができること)
	129	WebOPACや館内OPACからの予約依頼状況の確認ができること。予約依頼状況より、職員判断にて本予約の可否ができること。また、予約可否結果は予約者に対してメールで自動通知もできること。利用者毎にメール通知可否設定もできること。
	130	複数の資料が全てそろった時に貸出可能とする、そろう待ち予約ができること。
	131	複数の資料を予約し、割当順位をつけ順位順に貸出可能にする順番待ち予約ができること。
	132	予約対象館を本籍館または現在館から選択できること。また、対象館をグループ館(グループ館：Aグループ館はA1館とA2館等)毎の予約ができること。(グループ館毎にグループ化されている館名の表示ができること。)
	133	上下巻等の複数資料に予約を行い、資料が全てそろった時に貸出可能となるセット予約ができること。
	134	予約利用者の受取希望館の選択ができること。また、BMについてはステーションの選択ができること。
	135	自館に確保できる資料が無く、他館にある場合に予約機能にて配送依頼ができること。また、複数館にある場合は依頼先館を選択でき、依頼と同時に依頼先へ配送依頼票を印刷できること。
	136	予約者の受取希望館に合わせて複数の分館を地域(グループ)毎にまとめて設定できること。予約時には予約対象館を複数個指定するのではなく、予約対象地域を指定するだけで対象館全てに指定ができること。
	137	自館に確保できる資料が無く、他館にある場合、予約と同時に依頼先館のページプリンタに予約配送票を自動印刷できること。確保できる資料が複数館にある場合は、画面上で依頼先館を選択できること。
	138	予約在架一覧は自館在架を優先に出力できること。
	139	予約受取館に「自宅」が指定可能なこと。
	140	バーコードの走査だけで、予約確保の取消しが可能なこと。
	141	予約連絡メールは、自動発信もできること。
	142	予約画面でリクエスト用紙の印刷ができること。
配送管理	143	予約配送および他館返却による配送管理ができること。誤って配送処理した場合、取消もできること。
	144	配送館状況(A館→B館)、配送日等の状況をリアルタイムに確認ができること。
	145	自館から予約配送依頼した資料の状況をリアルタイムに確認ができ、依頼取り消しもできること。
	146	他館から予約配送依頼されている資料の状況をリアルタイムに確認ができ、依頼拒否もできること。
	147	一覧画面で配送状況(配送資料名、配送元館名、配送先館名、配送日等)が確認できること。

分類	No.	要求機能
	148	一覧画面で配送依頼状況(配送依頼資料名、配送元館名、配送先館名、配送日等)が確認できること。
	149	配送元館／配送先館毎の年間配送状況(返却時の本籍館配送、予約配送、予約取消毎の毎月配送件数)が印刷できること。
	150	他館で利用可能な所蔵がある場合、利用可能館へ配送依頼票の出力ができること。
館内OPAC	151	最新のMicrosoft Edge(IEモード)またはGoogleChrome上で動作可能であること。
	152	セキュリティに配慮し、ブラウザからプラグイン (applet) やクライアントで動作する仕組み (JWS) などではないこと。
	153	Microsoft Edge(IEモード)またはGoogleChromeのみをアップデートすれば、セキュリティ対策が実施できる仕組みとすること。
	154	セキュリティに配慮し、クライアントにjavaをインストールしなくても動作すること。
	155	メール送信機能は、セキュリティに配慮し、SMTPSに対応していること。
	156	画面はワイドディスプレイにも対応していること
	157	書名、著者名等の検索キーワードをタッチスクリーン操作で入力し、資料の検索ができること。
	158	キーボードレス(タッチスクリーン)操作で複合キー検索により、資料の検索ができること。
	159	キーボードによる検索もできること。また、キーボード入力時はカナ漢字混在による検索ができること。
	160	書名・著者名・出版者・任意定義項目・分類・ISBN・資料コード・内容項目等で資料検索できること。書名・著者名・任意定義項目は、全半角混在で検索ができること。
	161	ひらがなとカタカナ、全角と半角のどちらで入力しても検索でき、検索結果は変わらないこと。同様に大文字、小文字(例『や』と『ヤ』、『A』と『a』等) どちらで入力しても検索できること。さらに、音が同じもの(例『バ』と『ヴァ』、『を』と『お』、『は』と『わ』、『じ』と『ぢ』等)も、どちらで入力しても検索できること。
	162	検索中断件数の設定ができること。
	163	雑誌資料について、タイトル表示とタイトル毎の巻号一覧の表示ができること。また、製本した資料については、どのような資料を製本しているか一覧表示ができること。
	164	検索結果詳細として表示する項目の任意設定ができること。
	165	Googleブックスと連携し、書影の表示が行えること。
	166	検索結果より、その資料とリンクされているイメージ(画像)情報を表示できること。
	167	検索結果より、その資料が配架地図上のどこにあるのか表示できること。
	168	詳細画面より、受け取り可能な予約受取館の表示ができること。
	169	詳細画面から予約申込ができること。
	170	予約方式は、直接予約方式・予約依頼方式の選択ができること。
	171	予約件数の制限がかかること。処理館、予約区分、利用者資格、資料毎の件数制限ができること。
	172	所蔵の貸出規則区分により、予約件数の制限がかかること。
	173	延滞利用者に対して、新規予約を行えないように制限できること。
	174	特定の利用者資格のみ予約可能となるよう制限できること。
	175	本人へ貸出中資料への予約を制限できること。
	176	連絡方法、受取館などの予約関連情報を、利用者資格毎・利用者単位に初期値設定できること。
	177	他館資料に貸出可能な資料がある状態でも、予約できること。
	178	他館資料に貸出可能な資料がある状態でも予約した場合、資料所在館に予約依頼票を印刷できること。
	179	予約申込時、申込内容の確認画面を表示できること。
	180	予約完了時、確認メールを利用者に送信できること。
	181	予約完了時、利用者控えの出力ができること。
	182	おすすめの本をテーマとして登録しておき、一覧表示できること。また、テーマは「検索キーワード指定」「バーコード指定」のどちらでも可能なこと。
	183	一定時間経過後、自動的にトップ画面に戻れること。
	184	催し物や新刊情報の表示、休館日等の図書館からのお知らせ表示ができること。
	185	OPAC各機能の利用回数統計が出力できること。
	186	画面遷移をパンくずリストとして表示し、パンくず指定にて画面遷移できること。
	187	館内OPAC背景画像の変更が可能なこと
	188	館内OPACマスコットの変更が可能なこと

分類	No.	要求機能
	189	利用者初期パスワードの有効期限が設定されている場合、パスワード変更を促すメッセージが表示できること。
	190	予約申込時に指定した連絡方法・受取館・受取ステーションを次回予約申込時に表示できること。
	191	無効利用者に対して利用者サービスの機能制限ができること。
	192	簡易読書通帳用として貸出シールの印刷が可能なこと。
	193	テンプレートを選択して、デザインを変更する機能を有すること
	194	利用者のパスワードの桁数・文字種の制限が可能なこと。
館内OPAC (大人)	195	検索項目を特定せず、検索語のみの入力で見つけられること。
	196	検索項目を指定するキーワード検索もできること。
	197	キーワード検索にて、全館対象/自館限定/特定館(任意の複数館)限定の指定ができること。また、自館所蔵の資料に限定した検索ができること。
	198	全文検索ができること。
	199	NDC分類一覧からの選択・参照入力ができること。また、この時、NDC8版と9版の版数選択もできること。
	200	著者名=イケナミシヨウタロウのように、特定の検索条件を事前に登録しておき、ワンタッチで検索できること。
	201	雑誌ジャンル(例:スポーツ、車、旅行、等)を登録しておき、特定ジャンルの雑誌タイトルを一覧表示できること。
	202	ベストリーダ一覧が表示できること。ベストリーダは資料の分類や利用者の年代を指定して一覧表示できること。
	203	ベスト予約一覧が表示できること。
	204	検索結果一覧は図書、雑誌、視聴覚等の単位で表示できること。
	205	検索結果一覧を並び替えできること。
	206	検索結果一覧に条件を追加し、絞込みできること。
	207	検索結果一覧が複数ページにわたる場合、移動先ページを指定して遷移できること。
	208	検索結果一覧の印刷ができること。
	209	雑誌資料の場合、タイトル一覧から巻号一覧に展開できること。
	210	巻号一覧は発行年月日の降順に初期表示できること。
	211	巻号一覧に条件を追加し、絞込みできること。
	212	一覧表示から一件を選択し詳細表示できること。
	213	詳細画面では主要な項目(タイトル、シリーズ、責任表示等)を初期表示し、展開して詳細事項を表示できること。
	214	詳細画面に所蔵点数、貸出中点数、予約件数が表示可能なこと。
	215	製本資料の場合、製本された子資料の表示ができること。
	216	内容細目や記事内容など、構成要素の書誌事項を表示できること。
	217	請求票、書庫出納票の印刷ができること。書誌番号、資料コードのバーコードの印刷ができること。
	218	詳細画面で、次ボタン、前ボタンで一覧の明細を移動できること。
	219	別項のこども向け読書ナビゲーション機能と連携し、表紙画像の表示ができること。
	220	利用者カード番号とパスワードでログインできること。
	221	利用者カード番号、パスワード、ワンタイムパスワードの多要素を使用したログインが可能なこと。
	222	利用者の貸出中資料を照会できること。延滞や予約の状況もあわせて表示できること。
	223	利用者の予約中資料を照会できること。受取館や待ち人数を表示できること。
	224	貸出中資料照会画面から、貸出延長申込ができること。
	225	延滞利用者に対して、貸出の延期を行えないように制限できること。
	226	相互貸借資料に対して、貸出の延期を行えないように制限できること。
	227	特定の資料区分の資料に対して、貸出の延期を行えないように制限できること。
	228	複数の資料を予約し、割当順位をつけ順位順に貸出可能にする順番待ち予約が登録できること。
	229	予約中資料照会画面から、予約の取消し申し込みができること。
	230	予約中資料照会画面から、予約の変更ができること。

分類	No.	要求機能
	231	貸出状況、予約状況の印刷ができること。
	232	予約を取り消した資料の表示ができること。
	233	旧パスワードの認証入力により、パスワードの変更ができること。変更処理では確認画面の表示ができること。
	234	パスワードの認証入力により、メールアドレスの登録・変更ができること。変更処理では確認画面の表示ができること。
	235	変更処理の完了通知メールの送信ができること。
館内OPAC(こども)	236	検索項目を特定せず、検索語のみの入力での検索ができること。
	237	複数の単語を空白区切りで入力し、単語同士のAND条件での検索ができること。
	238	こども向け画面では、こども向けの資料(区分で制御すること)に限定した検索ができること。
	239	キーワード検索にて全館対象/自館限定/特定館(任意の複数館)限定の指定ができること。また、自館所蔵の資料に限定した検索ができること。
	240	著者名=チョウシタのように、特定の検索条件を事前に登録しておき、ワンタッチで検索ができること。
	241	ベストリーダー一覧が表示できること。
	242	検索結果一覧は資料管理区分単位で表示ができること。
	243	雑誌資料の場合、タイトル一覧から巻号一覧に展開できること。
	244	検索結果一覧の印刷ができること。
	245	巻号一覧は発行年月日の降順に初期表示できること。
	246	一覧表示から一件を選択し詳細表示できること。
	247	詳細画面では主要な項目(タイトル、シリーズ、責任表示等)を初期表示し、展開して詳細事項を表示できること。
	248	製本資料の場合、製本された子資料の表示ができること。
	249	内容細目や記事内容など、構成要素の書誌事項を表示できること。
	250	請求票、書庫出納票の印刷ができること。書誌番号、資料コードのバーコードの印刷ができること。
	251	詳細画面で、次ボタン、前ボタンで一覧の明細を移動できること。
	252	別項のこども向け読書ナビゲーション機能と連携し、表紙画像の表示ができること。
	253	利用者カード番号とパスワードでログインできること。
	254	利用者カード番号、パスワード、ワンタイムパスワードの多要素を使用したログインが可能なこと。
	255	利用者の貸出中資料を照会できること。延滞や予約の状況もあわせて表示できること。
	256	利用者の予約中資料を照会できること。受取館や待ち人数を表示できること。
	257	貸出中資料照会画面から、貸出延長申込ができること。
	258	延滞利用者に対して、貸出の延期を行えないように制限できること。
	259	相互貸借資料に対して、貸出の延期を行えないように制限できること。
	260	特定の資料区分の資料に対して、貸出の延期を行えないように制限できること。
	261	複数の資料を予約し、割当順位をつけ順位順に貸出可能にする順番待ち予約が登録できること。
	262	予約中資料照会画面から、予約の取消し申し込みができること。
	263	予約中資料照会画面から、予約の変更ができること。
	264	貸出状況、予約状況の印刷ができること。
	265	予約を取り消した資料の表示ができること。
	266	旧パスワードの認証入力により、パスワードの変更ができること。変更処理では確認画面の表示ができること。
	267	パスワードの認証入力により、メールアドレスの登録・変更ができること。変更処理では確認画面の表示ができること。
	268	変更処理の完了通知メールの送信ができること。
セルフ貸出機能	269	専用機ではなく通常のパソコン端末で利用者自身が貸出・返却できること。
	270	画面はワイドディスプレイにも対応していること
	271	館内OPACと切替運用ができること。
	272	貸出レシートの印刷ができること。

分類	No.	要求機能
	273	テンプレートを選択して、デザインを変更する機能を有すること
図書管理	274	各種可変長マークデータは完全に取り込むことができること。(完全可変長項目数対応)
	275	複本のデータ管理ができること。
	276	マークのタグ・サブ項目とデータベースの属性・項目を任意に設定でき、最適な運用環境を実現できること。
	277	著者名、叢書名、出版社名、書名等の先頭からの一部を入力しワンタッチで既入力データから項目一覧を表示し、そこからの選択入力ができること。
	278	NDC分類一覧からの選択・参照入力ができること。また、この時、NDC8版、9版、10版の版数選択もできること。
	279	書名・著者名等にて入力した漢字項目から自動的にヨミ振り分かちができること。
	280	書名などカナ漢字ペアで管理されている項目に関しては、漢字入力した通りに自動でヨミ振りできること。
	281	漢字で入力された項目を自動的に分かちして、中間検索対象にできること。
	282	各種マークに対応した、豊富なローカル情報を持てること。
	283	ローカル情報に本籍・現在館の詳細情報を持ち、分館業務に完全対応できること。
	284	複数行にまたがったデータを漏れなく入力することができること。
	285	対(グループ)となる書誌項目をグループ化して登録できること。
	286	検索結果一覧で、巻次・巻号順に整列する為の序数化の自動付与ができること。
	287	TRCマーク：内容細目ファイル、学習件名ファイルを一括登録でき、検索に活用できること。
	288	TRCマーク：内容細目入力の際には1つの書誌に対して制限無く登録できること。また人名についても制限無く登録できること。
	289	TRCマーク：目次ファイルを一括登録できること。
	290	所蔵登録画面でタブ等の切替により1画面にて、複本情報・貸出状況・予約状況・発注状況を表示できること。
	291	請求記号は別置、NDC分類、著者記号、巻冊記号の4つに分けて登録できること。それぞれの入力文字属性に応じIMEのON/OFF制御ができること。
雑誌管理	292	タイトル書誌一覧機能により入力が簡略化でき、タイトル/巻号の書誌連携が容易であること。雑誌タイトル(タイトル書誌)は、雑誌コードによる呼出しができること。
	293	タイトルと各巻情報を分けて管理し、検索できること。
	294	雑誌タイトルが改題された場合、変遷前タイトル書誌と変遷後タイトル書誌の関連付けができ、検索でどちらかのタイトルでヒットしても関連タイトル書誌情報が参照できること。また、複数のタイトル書誌の合併や1つのタイトル書誌からの派生/分離にも対応できること。
	295	タイトル一覧画面より巻号(バックナンバー)一覧画面を表示できること。
	296	各種情報を可変長にて登録し、検索できること。
	297	最新巻号の登録時に、直前号の貸出禁止が解除され、最新号を自動的に貸出禁止にできること。また、登録時に貸出禁止期限を予め設定もできること。
	298	最新巻号の登録時に、直前号の巻号情報、およびローカル情報を初期表示できること。
	299	巻号を「巻/号/通巻」で管理する場合、前号の巻号書誌情報より、自動で巻号予測し初期表示できること。
	300	著者名、叢書名、出版社名、書名等の先頭からの一部を入力しワンタッチで既入力データから項目一覧を表示し、そこからの選択入力が可能であること。
	301	タイトルなどカナ漢字ペアで管理されている項目に関しては、漢字入力した通りに自動でヨミ振りできること。
	302	漢字で入力された項目を自動的に分かちして、中間検索対象にできること。
	303	豊富なローカルデータを持てること。
	304	ローカル情報に本籍・現在館の詳細情報を持ち、分館業務に完全対応できること。
	305	複数行にまたがったデータを漏れなく入力できること。
	306	対(グループ)となる書誌項目をグループ化して登録できること。
	307	検索結果一覧で、巻次・巻号順に整列化する為の序数化の自動付与ができること。
	308	雑誌のJANコードを読み取って受入ができること。
	309	所蔵登録画面でタブ等の切替により1画面で、複本情報・貸出状況・予約状況・発注状況を表示できること。
	310	内容記事入力の際には1つの書誌に対して制限無く登録できること。
	311	TRC社の雑誌MARC/Tの取り込みができること。
AV管理	312	曲名・演奏者・出演者等の各種情報を漏れなく可変長登録できること。
	313	各種情報を可変長で登録し、検索できること。

分類	No.	要求機能
	314	複本のデータ管理ができること。
	315	マークのタグ・サブ項目とデータベースの属性・項目を任意に設定でき、最適な運用環境を実現できること。
	316	著者名・シリーズ名・出版者名、タイトル等の先頭からの一部を入力しワンタッチで既入力データから項目一覧を表示し、そこからの選択入力できること。
	317	タイトルなどカナ漢字ペアで管理されている項目に関しては漢字入力した通りに自動でヨミ振りができること。
	318	漢字で入力された項目を自動的に分かちして、中間検索対象にできること。
	319	各種マークに対応した、豊富なローカル情報を持てること。
	320	ローカル情報に本籍・現在館の詳細情報を持ち、分館業務に完全対応できること。
	321	複数行にまたがったデータを漏れなく入力できること。
	322	対(グループ)となる書誌項目をグループ化して登録できること。
	323	検索結果一覧で、巻次・巻号順に整列する為の序数化の自動付与ができること。
	324	TRC-Tマーク：AVマークを項目のもれなく一括登録できること。
	325	日販マーク：AVマーク(NHKマーク、ニッパンAVマーク、ニッパンCDマーク)を項目のもれなく一括登録できること。
	326	大阪屋マーク：AVマーク(OPL-AVマーク(可変長、固定長))を項目のもれなく一括登録できること。
	327	ジーサーチマーク：AVマーク(Gマーク)を項目のもれなく一括登録できること。
	328	日本図書館協会マーク：AVマーク(日図協AVマーク)を項目のもれなく一括登録できること。
	329	Toccataマーク：AVマーク(Toccataマーク)を項目のもれなく一括登録できること。
	330	所蔵登録画面でタブ等の切替により1画面にて、複本情報・貸出状況・予約状況・発注状況を表示できること。
	331	請求記号は別置、NDC分類、著者記号、巻冊記号の4つに分けて登録できること。それぞれの入力文字属性に応じIMEのON/OFF/半角割制御ができること。
	332	内容細目入力の際には1つの書誌に対して制限無く登録できること。また人名についても制限無く登録できること。
蔵書管理	333	館コードにより分館の管理ができること。
	334	持禁区分の設定・変更処理が連続でできること。
	335	資料の除籍・復籍処理が連続でできること。
	336	該当資料が手元に無い場合でも検索から該当資料を発見し、ローカル情報の変更処理ができること。
	337	コード値(所蔵場所コード等)入力時、コード一覧を表示し、選択入力できること。また、キーボードより直接コード値入力もできること。コード選択時は名称にて一覧から選択できること。
	338	バーコード入力により、所蔵場所コード等、区分・コード値変更を連続でできること。また、変更履歴の画面表示、およびバックアップをダウンロードし、変更内容の保存/復元ができること。
	339	ハンディーターミナルで読み込んだバーコード情報より、所蔵場所コード等、各区分・コード値の一括変更ができること。
	340	区分値、貸出回数、最終貸出日等を抽出条件とし、所蔵場所コード等、各種ローカル項目の一括変更ができること。 例：公開配架資料で最終貸出日が特定日以前の資料を、書庫配架に変更する。
	341	マークデータと装備されたバーコードに誤りがあった場合など、書誌(タイトル)情報とローカル情報がミスマッチの時、バーコードの貼り替えをせず、データ側を組替えて対応することができること。
	342	装備されているバーコードが汚れ等で読取できなくなり、別な番号でバーコードを貼り替える場合、各種データのバーコード番号も同期をとって変更できること。
	343	同一書誌がある場合など、特定書誌の所蔵、貸出、予約、リクエスト、相互貸借情報を別書誌に付け替えることができること。
	344	複数タイトルの資料(主に雑誌)を製本(合本)することができること。一度製本したデータを元にばらすこともできること。検索で製本された元の資料情報も参照できること。
	345	館内OPAC及びインターネット向けサービス(WebOPAC)で紹介する「おすすめの本」のバーコード指定を、オンライン登録(バーコード入力)/HHTからの一括登録のどちらでも可能なこと。
	346	「おすすめの本」のバーコード指定資料は、一覧印刷/CSVファイル出力が可能なこと。
	347	資料に付録の有無を登録することができること。
	348	資料の除籍・削除処理時、廃棄予定日以前の場合にメッセージ表示が可能なこと。
	349	資料の除籍・削除処理時、他に利用可能な複本が無い場合にメッセージ表示が可能なこと。
	350	コーナー本や事情本などのタグを資料に登録し管理できること。
	351	資料の除籍・削除処理時、タグ・レファレンス参考資料がある場合にメッセージ表示が可能なこと。
蔵書点検	352	蔵書点検前処理等の事前処理無しで蔵書点検が開始できること。

分類	No.	要求機能
	353	オンライン、オフラインの両方で蔵書点検ができること。
	354	ハンディターミナルでバーコードを入力し、棚の本の在庫点検ができること。また、不明・除籍・未登録・貸出中未返却(自動的に返却処理される)・配架間違いの資料のチェックリストを出力できること。
	355	蔵書のバーコードの未入力(点検もれ)の一覧が印刷できること。点検もれバーコードのみ入力/累積し、最終的に不明資料を確認できること。
	356	蔵書点検の結果、不明資料一覧を印刷できること。
	357	一定(任意指定可)回数以上の不明資料を一括で除籍に変更できること。なお、除籍資料は任意に復籍もできること。
	358	各館(及び場所)毎に蔵書点検ができること。
選書	359	MarcNo/ISBN/資料コードをバーコード走査により、選書対象の資料を特定し選書ができること。
	360	資料検索との連携により選書対象の資料を特定し選書作業ができること。
	361	選書時は、選書対象の資料情報に加え、資料に紐づく発注数、複本数、予約数を確認できること。また、各件数の詳細は一覧にて確認ができること。
	362	選書時は、分館を含めた選書状況を確認できること。
	363	選書データの追加ができること。また、一度に複数館分の選書データをまとめて追加する機能を有すること。
	364	選書データの修正ができること。
	365	選書データの削除ができること。
	366	TRCマーク：選書時にTRCへの注文情報の指定が可能であること。
	367	大阪屋マーク：選書時に大阪屋への注文情報の指定が可能であること。
	368	選書時にリクエスト情報の登録ができること。登録されたリクエスト情報は、発注処理後に対象の発注情報とリンクされること。
	369	分館を含めた各館の選書状況を通覧して確認することができること。また、選書状況を確認後、一括で発注処理ができること。
発注	370	同一書誌に対する二重発注のチェックができること。
	371	新刊案内のバーコードを走査することにより発注できること。また、発注データを作成できること。
	372	雑誌等の逐次刊行物を年単位で一括発注できること。発注時、指定した刊行頻度情報(月刊等の刊行頻度や発売日または曜日等の情報)より、年間受入回数分の発注明細が表示できること。また、発注明細毎に発行予定日が自動計算され表示できること。
	373	発注の取消しができること。
	374	発注時処理から予算の差し引き処理が自動で行われること。
	375	発注中の本に対して予約できること。
	376	予約が登録されている発注の取消し処理をする際、メッセージ表示が可能なこと。
	377	発注資料のマーク番号を連続入力し、まとめて発注できること。
	378	発注画面で、複本等の所蔵状況一覧が表示できること。自館/全館の表示切り替えもできること。
	379	発注画面で、予約状況一覧が表示できること。自館/全館の表示切り替えもできること。
	380	発注画面で、発注状況一覧が表示できること。自館/全館の表示切り替えもできること。
	381	TRCマーク：TRC発注データを作成できること。作成・抽出したデータは一覧形式で印刷できること。
	382	TRCマーク：「週刊新刊全点案内」のバーコード(TRCNo)を走査し発注できること。
受入	383	発注情報を参照しながら、受入処理ができること。
	384	受入処理で予約本のチェックを行い、操作員に通知できること。予約棚確保もできること。
	385	受入行為から予算の差し引き処理が自動的に行われること。また、各種抽出マークやローカルマークによる一括受入時にも予算の差し引き処理ができること。
	386	雑誌等の年間一括発注(継続発注)本の受入で、該当する発行予定日の発注明細を指定して受入できること。ここで受入後、発注明細上では「受入済」と表示し、未受入/受入済の管理ができること。また、欠号や増刊の管理もできること。
	387	TRC-Typeマーク：ローカル情報をマークデータより一括受入時に、対象の発注情報を参照できること。
	388	大阪屋マーク：ローカル情報をマークデータより一括受入時に、対象の発注情報を参照できること。
	389	各種マークデータにより一括受入後、専用画面で検収処理ができること。また、検収前の本は貸出不可とし、検収後に貸出可能とすることができること。
	390	現物受入の際には館、資料種別、請求記号等毎に設定されたローカル情報の規定値を表示できること。また業務の再起動を行わなくても規定値の変更ができること。
予算	391	年度毎・月毎に予算額・発注額・受入額・予算残額・受入残額が管理できること。入力には各区分を細かく設定して行い、表示は各区分を細かく、または全体表示ができること。

分類	No.	要求機能
Web	392	WWWサーバ経由でインターネット上のブラウザ端末から蔵書検索ができること。
	393	最新の複数のブラウザ（IE、Chromeなど）に対応すること。
	394	レスポンシブデザインに対応し、マルチデバイス（PC、タブレット、スマホ）において同等の機能と操作性を有すること。
	395	総務省が提唱するアクセサビリティの基準においてA以上とすること。
	396	書名・著者名・出版者・任意定義項目・分類・ISBN・資料コード・内容項目等で資料検索できること。書名・著者名・任意定義項目は、全半角混在で検索できること。
	397	ひらがなとカタカナ、全角と半角のどちらで入力しても検索でき、検索結果は変わらないこと。同様に大文字、小文字（例『や』と『ヤ』、『A』と『a』等）どちらで入力しても検索可能であること。さらに、音が同じもの（例『バ』と『ヴァ』、『を』と『お』、『は』と『わ』、『じ』と『ぢ』等）も、どちらで入力しても検索可能であること。
	398	検索中断件数の設定ができること。
	399	雑誌資料について、タイトル表示とタイトル毎の巻号一覧が表示できること。また、製本した資料については、どのような資料を製本しているか一覧表示できること。
	400	操作ガイダンスは大人用(漢字混じり)、子供用(ひらがな)、英文の3種類に対応できること。
	401	催し物や新刊情報の表示、休館日等の図書館からのお知らせを表示できること。
	402	各機能の利用回数統計が出力できること。
	403	検索項目を特定せず、検索語のみの入力でも検索できること。
	404	検索語のみ入力の検索機能を各図書館の公開Webサイトへ掲載できること。
	405	複数の単語を空白区切りで入力し、単語同士のAND条件で検索できる。
	406	検索項目を指定してのキーワード検索ができること。
	407	キーワード検索にて、全館対象・自館限定等の館指定ができること。
	408	全文検索ができること。
	409	NDC分類一覧からの分類選択・参照入力ができること。また、この時、NDC8版、9版、10版の版数選択もできること。
	410	著者名＝イケナミシヨウタロウのように、特定の検索条件を事前に登録しておき、ワンタッチで検索できること。
	411	雑誌ジャンル(例：スポーツ、車、旅行、等)を登録しておき、特定ジャンルの雑誌タイトルを一覧表示できること。
	412	ベストリーダー一覧が表示できること。ベストリーダーは資料の分類や利用者の年代を指定して一覧表示できること。
	413	ベスト予約一覧が表示できること。
	414	おすすめの本をテーマとして登録しておき、一覧表示できること。また、テーマは「検索キーワード指定」「バーコード指定」のどちらでも可能なこと。
	415	検索結果一覧は図書、雑誌、視聴覚等の単位で表示すること。
	416	各種一覧の表示をタイル形式/一覧形式を選択して表示できること
	417	検索結果一覧を並び替えることができること。
	418	雑誌資料の場合、タイトル一覧から巻号一覧に展開できること。
	419	巻号一覧は発行年月日の降順に初期表示されること。
	420	一覧表示から一件を選択し詳細表示できること。
	421	詳細画面では主要な項目(タイトル、シリーズ、責任表示等)を初期表示し、展開して詳細事項を表示できること。
	422	詳細画面に所蔵点数、貸出中点数、予約件数が表示可能なこと。
	423	製本資料の場合、製本された子資料の表示ができること。
	424	内容細目や記事内容など、構成要素の書誌事項を表示できること。
	425	Googleブックスとの連携が、サイト毎の設定画面から簡単に設定できること。
	426	Googleブックスと連携し、書影の表示が行えること。
	427	外部サイト(カーリル、Googleブックス)へのリンクを表示し、指定したリンク先の画面が表示できること。
	428	詳細画面で、次ボタン、前ボタンで一覧の明細を移動できること。
	429	詳細画面より、受け取り可能な予約受取館の表示ができること。
	430	詳細画面から予約申込ができること。
	431	予約方式は、直接予約方式・予約依頼方式の選択ができること。
	432	予約件数の制限がかかること、処理館、予約区分、利用者資格、資料毎の件数制限ができること。

分類	No.	要求機能
	433	所蔵の貸出規則区分により、予約件数の制限がかかること。
	434	延滞利用者に対して、新規予約を行えないように制限できること。
	435	特定の利用者資格のみ予約可能となるよう制限できること。
	436	本人へ貸出中資料への予約を制限できること。
	437	連絡方法、受取館などの予約関連情報を、利用者資格毎・利用者単位に初期値設定できること。
	438	他館資料に貸出可能な資料がある状態でも、予約できること。
	439	予約申込時、申込内容の確認画面を表示すること。
	440	予約完了時、確認メールを利用者に送信できること。
	441	複数の資料を一括で予約する場合、グループ予約・セット予約(巻揃え、優先順)が選択できること。
	442	利用者カード番号とパスワードでログインできること。
	443	利用者カード番号、パスワード、ワンタイムパスワードの多要素を使用したログインが可能なこと。
	444	利用者のパスワードの桁数・文字種の制限が可能なこと。
	445	利用者の貸出中資料を照会できること。延滞や予約の状況もあわせて表示されること。
	446	利用者の予約中資料を照会できること。受取館や待ち人数の表示ができること。
	447	貸出中資料照会画面から、貸出延長申込みができること。この場合、延長回数や予約により延長可否のチェックができること。
	448	延滞利用者に対して、貸出の延期を行えないように制限できること。
	449	相互貸借資料に対して、貸出の延期を行えないように制限できること。
	450	特定の資料区分の資料に対して、貸出の延期を行えないように制限できること。
	451	予約中資料照会画面から、予約取消し申込みができること。
	452	予約を取り消した資料の表示ができること。
	453	旧パスワードの認証入力により、パスワードの変更ができること。変更処理では確認画面の表示ができること。
	454	パスワードの認証入力により、メールアドレスの登録・変更ができること。変更処理では確認画面の表示ができること。
	455	メールアドレス変更では、変更確認URLをメール通知し、アクセスを行うことだけで変更完了できること。
	456	利用者初期パスワードの有効期限が設定されている場合、パスワード変更を促すメッセージが表示できること。
	457	多要素認証機能の使用可否は、利用者の任意のタイミングで決定でき、使用する認証情報の追加／削除が可能なこと。
	458	予約申込時に指定した連絡方法・受取館・受取ステーションを次回予約申込時に表示できること。
	459	無効利用者に対して利用者サービスの機能制限ができること。
	460	予約申込時、宅配での貸出を指定できること。
	461	簡易検索／詳細検索時、検索キーワードを途中まで入力するとキーワード候補が選択（サジェスト）できること。また、表示されるサジェストキーワードは書誌情報から自動作成されること。
	462	検索結果一覧／詳細画面では、検索キーワードをハイライト表示できること。
	463	検索結果をキーワードでグループ化して簡単に絞込み検索（ファセットナビゲーション）ができること。
	464	予約を申し込みたい資料を、一時的に保存できること。（予約かご機能） また、保存した資料についてメモ／カテゴリを登録できること。
	465	設定により、予約かごを経由せず予約もできること。
	466	図書館のトップページに、SNS（Twitter,Facebook）で発信しているタイムラインなどを埋め込むことができること。
	467	利用者がパスワードを忘れた場合であっても、図書館への問い合わせをせずに利用者自身がパスワードを更新できる機能を提供していること。
	468	相互貸借館からの新刊本への予約は、一定期間受け付けないように制限できること。
	469	資料詳細画面から、カーリル(https://calil.jp/)の横断検索機能と連携できること。
	470	外部サイト(カーリル、Googleブックス)へのリンクを表示し、指定してリンク先の画面が表示できること。
	471	蔵書にない資料のリクエストが行えること。
	472	利用者バーコードを表示し、利用券として使用できること。

分類	No.	要求機能
SDIサービス	473	電子メールによるSDIサービスが提供できること。 ※SDIサービス：特定テーマの最新情報を定期的に提供するサービス 例：「園芸」「光ダイオード」などのキーワードを登録しておき、登録キーワードに合致する資料が登録(受入)されたらば、その資料情報(タイトル、著者、出版者等)をメールで提供する。
	474	利用者自身がインターネット経由で自由に情報提供を受けたい内容(キーワード)を登録できること。
	475	利用者が申し込む情報配信内容について、自動で配信できること。
相互貸借	476	借受本の簡易登録ができること。
	477	利用者からのリクエストに応じて、他館への相互貸借資料の借受依頼ができること。借受依頼の際、書誌(タイトル)情報の簡易登録ができること。
	478	借受依頼の際、相互貸借申込書の印刷ができること。
	479	借受依頼によって借りた資料が届いた際、先に登録した簡易書誌(タイトル)情報に簡易所蔵(ローカル)情報を登録と連動してリクエスト予約登録ができること。(リクエストした利用者に紐づけできること)
	480	相互貸借資料をリクエストした利用者に貸出できること。
	481	相互貸借資料を他館に返還する際、相互貸借借受資料一覧を印刷し、資料に添付して返還できること。
	482	他館から借り受けた相互貸借資料のバーコードは、そのまま利用できること。また、自館で独自に新しくバーコードを付け替えることもできること。
	483	他館から借り受けた相互貸借資料のバーコードをそのまま利用する場合、自館蔵書と同一バーコード番号の資料でも取扱できること。貸出/返却時に同一バーコードを検知し、職員判断で選択できること。
	484	他館から依頼された相互貸借資料を貸出する際、相互貸借貸出表を印刷し、添付して送付できること。
	485	どこの館からどの資料を借りているか画面で表示可能であること。また、借受館へ返却済か等の状態も表示可能であること。
486	借受資料を、借受館、書名タイトル、受入日、返還予定日、依頼日で検索できること。また、検索結果を印刷・CSVで出力できること。	
487	年報(相互貸借館毎・月毎の貸出冊数、借受冊数、分類毎月毎の貸出冊数、借受冊数)や実績一覧(借受タイトル・貸出タイトル)が印刷できること。	
488	Ufinity for PublicのILL連携機能に対し、貸出/返却時に連携可能なこと。	
帳票印刷	489	統計資料はExcelと連携し画面で確認でき、必要に応じてプリンタに印刷指示できること。また、Excelで2次加工(グラフ作成等)や保存することができること。
	490	利用者・所蔵情報等、任意の条件によって抽出する機能があり、結果がCSV形式など加工可能なデータとして保存・印刷ができること。CSVファイルは項目見出しつきで出力されること。
	491	日本図書館協会調査票に対する項目が出力できること。
	492	統計表(日報、月報、年報)について、ひとつの出力画面から帳票を出力できること。
	493	キハラ3段、埼玉福祉会1段の背ラベルが印刷できること。また、出口で印字レイアウトの調整や独自用紙への印字も可能なこと。
	494	特定の利用者資格の貸出、返却、予約を統計の集計から除外できること。
帳票	495	利用者一覧表
	496	無効利用者一覧表
	497	通知メッセージ一覧表
	498	新着資料一覧表
	499	無効資料一覧表
	500	未利用資料一覧表
	501	図書原簿
	502	図書一覧
	503	館場所要チェック資料一覧表
	504	雑誌タイトル一覧表
	505	貸出資料一覧
	506	仮返却資料一覧
	507	予約資料一覧表
	508	予約在架資料一覧表
	509	予約解除資料一覧表
	510	予約多数資料一覧表

分類	No.	要求機能
	511	リクエスト処理一覧表
	512	リクエスト統計表
	513	借受予約資料一覧表
	514	発注一覧表
	515	発注短冊
	516	選定リスト
	517	自動発注リスト
	518	納入状況リスト
	519	時間帯別利用統計
	520	日別利用統計
	521	月別利用統計
	522	曜日別利用統計
	523	年齢-分類別貸出統計
	524	年齢-地区別貸出統計
	525	地区別資料区分別貸出統計
	526	利用者資格別資料区分別利用統計
	527	資料区分-ステーション別貸出統計
	528	年齢-ステーション別貸出統計
	529	年齢-ステーション別貸出人数統計
	530	ベストリーダー
	531	ベストリクエスト
	532	年齢別毎ベストリーダー
	533	雑誌タイトル毎ベストリーダー
	534	分類別蔵書統計
	535	分類別蔵書統計表(リアルタイム)
	536	蔵書総括表
	537	地区-年齢別登録者統計
	538	蔵書集計表
	539	登録者集計表
	540	資料データリスト
	541	利用者データリスト
	542	貸借館別相互貸借統計
	543	分類別相互貸借統計
	544	相互貸借貸出タイトル一覧表
	545	相互貸借借受資料一覧表
	546	相互貸借申込書
	547	相互貸借返却状
	548	公共図書館調査票
	549	蔵書点検エラーリスト
	550	不明候補資料一覧表
	551	不明資料一覧表
	552	除籍候補一覧表

分類	No.	要求機能
	553	資料検索結果一覧表
	554	資料検索結果詳細
	555	資料バーコード一覧
	556	利用者バーコード一覧
	557	利用者カード
	558	貸出レシート
	559	督促葉書／未返却者一覧
	560	予約連絡表
	561	予約連絡一覧
	562	配送票
	563	おすすめ資料一覧
	564	タグ一覧
	565	利用者総括表
	566	多読者一覧
	567	団体別利用者統計表
	568	統計分類別所属別貸出統計表
	569	曜日別年齢別利用人数統計表
	570	統計分類別貸出実績表
	571	統計分類別利用者資格別利用統計表
	572	所蔵一覧
	573	年齢・地区別実利用人数統計表
	574	資料区分－ステーション別返却統計表
	575	年齢－ステーション別返却統計表
	576	年齢－ステーション別返却人数統計表
	577	OPAC利用件数統計表（館内、Web、携帯毎）
	578	予算区分別利用統計表
	579	曜日毎時間帯毎統計表（前年度比較）
	580	配送実績統計表
	581	相互貸借資料未返却一覧表
	582	AVブース統計表
	583	アクセス記録参照